

## 石綿建材締め出し

文部省 新設の国立大施設など

発がん原因物質とされる石綿

綿(アスベスト)が大阪大学工学部(大阪府吹田市)研究棟の天井からはく離し、教室の汚染が心配されているが、文部省は新年度から新設する国立の大学、研究所の施設から石綿含有建材を締め出す。小、中学、高校などを所管する各地の自治体にも波及しそ

うた。文部省は、大学などの施設の設計仕様書に、仕上げ材には、石綿を含まない建材を使用するよう明記する方針。仕様書の改訂は五十八年以来だが、これまでは石綿については特に触れていなかった。現在、石綿が使われている施設は、今後の検討課題とし、大阪大については事情を聴く。石綿は日本では七割近くがスレート材などの建材に使用。三十年代から四十年代後半にかけて建設されたビルの天井表面には「こく」に、はく離しやすい」として、五十年以後禁止されている吹き付け工法のもが多く、建設省が官庁での使用状況調査について検討を開始。また、環境庁から委託された専門家が「低濃度の石綿繊維吸引でも健康への影響は大きい」と指摘した報告書が近く刊行されるなど、見直しが進んでいる。